

# 令和6年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

社会科

## ★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1年	○発言が多く、教え合いも積極的である。 ▲復習の習慣が不十分で、知識が十分に定着していない。	小テスト後のフィードバックを活用して、定着を図る。	1年	○テストなどでは知識を問う問題の正答率は1学期よりも向上してきている。 ▲地図の活用が苦手な生徒がみられる。	・意図的に地図帳を活用する場面を設け、地図から情報を読み取ることに慣れさせていく。 ・タブレット端末を活用した小テストなどを実施し、知識の定着を図る。	学習支援ソフトなどを活用した個に応じた学びのいっそうの推進。
	2年	○作業には意欲的に取り組む。 ▲復習の習慣が不十分で、知識が十分に定着していない。		2年	○テストなどでは知識を問う問題の正答率は1学期よりも向上してきている。 ▲地図の活用が苦手な生徒がみられる。		学習支援ソフトなどを活用した個に応じた学びのいっそうの推進。
	3年	○理解力が高く、教え合いにも積極的。 ▲知識の定着度合いに差が見られる。		3年	○現在の世の中の出来事やニュースと結び付けて、公民的分野の内容を理解している生徒が多くなってきた。		学習支援ソフトなどを活用した個に応じた学びのいっそうの推進。
思考・判断・表現	1年	○知識をもとにした発想力がある。 ▲因果関係をきちんと整理することが苦手な面が見られる。	互いの意見を共有したり、発表したりする場面をより多く設定し、言語化する力の充実を図る。	1年	○ペア学習やグループ討議によって表現力や思考の深まりがみられる。 ▲因果関係を適切に表現する力が課題。	発表などにおいて、因果関係や事象の流れを説明する力は伸びてきているが、テストなどで文章として表現する力を伸ばしていくことが課題。記述におけるポイントの視覚化やワークの記述問題を繰り返し取り組ませる。	多角的な視点で社会的事象を捉えられる思考力をさらに伸ばしていく。
	2年	▲じっくりと考え、自分の考えを言葉や文章にして表現することが苦手である。		2年	○ペア学習やグループ討議によって表現力や思考の深まりがみられる。 ▲端的にまとめるのが苦手な生徒が多い。		歴史的事象の因果関係や流れを結びつける思考力をさらに伸ばしていく。
	3年	○既習事項をもとにした思考や表現が増えてきている。 ▲因果関係を整理することが苦手である。		3年	○ペア学習やグループ討議によって表現力や思考の深まりがみられる。 ▲文章として表現することに若干の課題。		社会問題に対する関心をもち、調査の上、それに対する自分なりの考えを発表することができた。
主体的に学習に取り組む態度	1年	○毎時間毎と単元の終わりに振り返りを行うことで、学習したことを次の学びに生かそうとする意欲が見られた。	生徒の考えや振り返りを紹介して、全体で共有することで、次の学びへの意欲に結び付けられるよう指導する。	1年	○自分の考えを整理したり、考え直したりして、粘り強く、学びの修正を図る姿勢が増えている。	他の人との意見交換や全体での共有を継続していきながら、自分の学習の振り返りを行う時間を十分に確保していく。	振り返りのフォーマットについて、タブレット端末を活用する。
	2年	○毎時間毎と単元の終わりに振り返りを行うことで、学習したことを次の学びに生かそうとする意欲や学びの修正が見られた。		2年	○自分の考えを整理したり、考え直したりして、粘り強く、学びの修正を図る姿勢が増えている。		振り返りのフォーマットについて、タブレット端末を活用する。
	3年	○毎時間毎と単元の終わりに振り返りを行うことで、学習したことを次の学びに生かそうとする意欲や学びの修正が見られた。		3年	○自分の考えを整理したり、考え直したりして、粘り強く、学びの修正を図る姿勢が増えている。		振り返りのフォーマットについて、タブレット端末を活用する。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題	
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	・formを活用した小テストや意見の集約。 ・プレゼンテーションを活用した資料や作業手順の提示。		・作業手順や指示を視覚化したことで、生徒の学習活動がスムーズに行われた。 ・小テストなどの結果を踏まえた個々へのフィードバックが今後の課題。	・プレゼンテーションソフトを活用した資料や作業手順の提示。 ・プレゼンテーションソフトを活用した、生徒によるレポートの作成。 ・授業毎の振り返り時間の確保。	・手順の視覚化により、スムーズに作業が進み、振り返りの時間の確保につながっている。 ・ICT機器の活用によって多面的に考えられる場面が増えている。	・振り返りを行うためのワークシートを、タブレット端末のフォーマットも作成し、生徒がいつでも見返すことができるようにする。 ・学習内容の精選とそれに伴う年間における学習計画の調整。	